

7. ブドウの減農薬栽培で問題となる鱗翅目害虫の見分け方（情報）			
[要約] ブドウの減農薬栽培で発生が多くなる鱗翅目害虫の類似種は、果房の被害や幼虫の形態で見分けることができる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

ブドウで減農薬栽培を行うと、それまでマイナーであった鱗翅目害虫の発生が多くなるが、被害や幼虫の形態が類似しているため、現場では種を誤認するケースがみられる。そこで、被害の特徴や幼虫の形態等から種類を見分ける方法を明らかにし、今後の防除対策に資する。



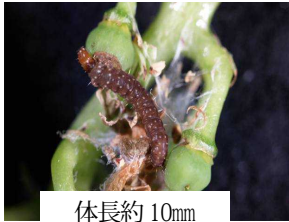












[成果の概要・特徴]

1. チャノコカクモンハマキとホソバチビヒメハマキは、絹状の糸で花穂や幼果を綴って食害し、食害部で蛹化する。両種とも果房被害は類似しているため、幼虫の体長、色、斑紋の有無で見分ける。両種とも幼虫の動きは非常に活発である。チャノコカクモンハマキは葉にも発生し、綴り合わせた中で食害する。
2. モモノゴマダラノメイガは、糞粒を激しく排出して果軸や果粒の間に固めるので、容易に見分けることができる。幼虫が成熟すると蛹室をつくり、成虫が羽化すると果粒表面に鱗粉が付着してキラキラとみえる。幼虫の動きはやや鈍い。
3. モンキクロノメイガは、果軸や果面の表皮をなめとるように食害する。通常、葉の縁を筒状に巻く被害が多く、果房被害は少ない。幼虫は *Syllepte* sp. と類似し、ともに体表の光沢が強く、動きが非常に活発であるが、モンキクロノメイガは頭部に斑点があるので区別できる。
4. トガリメイガ類は、果房内部にクモの巣状に細かい糸を張り、細かい糞を排出する。幼虫の動きはやや鈍い。
5. ミノガ類は、果粒表面を浅く食害し、食害部にミノを形成する。ブドウオオトリバは、果粒表皮から果肉に穴を開けるように食害し、食入孔から糞を排出する。

[成果の活用面・留意点]

1. 性フェロモン剤（商品名：ハマキコンN）は、チャノコカクモンハマキにしか防除効果がないので、類似種が主体の園では使用しない。
2. モモノゴマダラノメイガは、露地ブドウ（主にピオーネ）の有袋栽培でのみ発生する。多発すると被害が大きいので、多発園では袋掛け前の防除を必行する。
3. モンキクロノメイガは、露地栽培に比べ施設栽培での発生が多い。
4. トガリメイガ類、ミノガ類は、局所的な発生に限られ、多発することは少ない。
5. ブドウオオトリバは、山際の園で発生が多い。

[具体的データ]

	果房被害の様子	幼虫の形態
ハマキガ類		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>チャノコカクモンハマキ</p>  <p>体長約 20mm</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ホソバチビヒメハマキ</p>  <p>体長約 10mm</p> </div> </div>
モモノゴマダラノメイガ	  <p>蛹室</p>	 <p>体長約 25mm</p>
モンキクロノメイガ	 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>モンキクロノメイガ</p>  <p>体長約 25mm</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>類似種 (<i>Syllepte</i> sp.)</p>  <p>体長約 25mm</p> </div> </div>
トガリメイガ類		 <p>体長約 10mm</p>
ミノガ類	  <p>ミノ長約 10~15mm</p>	<p>ブドウオオトリバ</p>  <p>体長約 20mm</p>

[その他]

試験研究課題・事業名：フェロモン剤及び黄色蛍光灯を利用したピオーネの減農薬栽培技術の確立

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成 16~18 年度